

小学校英語教科化に対応した英語指導に向けた校内研修プログラムの開発

町田智久（国際教養大学 グローバルコミュニケーション実践領域 准教授）

はじめに

文部科学省から新学習指導要領が発表され、2020年からの小学校英語教科化が具体的になった。各小学校では、2020年の本格実施を目指して準備をすることになっている。しかし、教員の準備状況は必ずしも万全だとは言えない。多くの小学校教員が自身の英語能力に不安を感じており、英語スピーキング力に対する自己評価も低い。しかし、小学校の英語教科化に向けては、担任教員の英語指導力の向上は不可欠である。そのため、多くの小学校教員が時間的・地理的拘束を気にせず、英語指導に向けての準備を行える研修が校内研修の充実を目指した取り組みを行うこととした。

教員研修キットの内容

これまで開発した集合型や出前型の教員研修が持つ、参加教員の英語に対する不安を軽減し、英語指導に対する前向きな姿勢を育む効果を生かしながら、どこの小学校でも実施可能な形式を考えたところ、3回の研修（各90分）からなるDVD形式の研修キットとした。

各回の研修は、第1回「外国語不安を和らげよう」、第2回「教室英語と指導手順を学ぼう」、第3回「英語を使った指導を体験しよう」である。

回	内容
第1回	講義・演習「外国語不安を和らげよう」 新学習指導要領について概観し、英語での指導の重要性を学ぶ。また、外国語不安の特徴や要因、さらにその対処法について具体的な活動や実際の教員の声や実践例を通して学ぶ。
第2回	講義・演習「教室英語と指導手順を学ぼう」 英語の言語的な特徴を理解し、英語を使った指導で有効な教室英語の113フレーズを授業場面に沿って学んでいく。また、効果的な英語の指導手順についても具体例を通して学ぶ。
第3回	講義・演習「英語を使った指導を体験しよう」 メリアー・アプローチを活用したティーチャー・トークの技術を練習しながら、教室英語の効果的な使用方法について学ぶ。

研修キットの効果の検証

秋田県大仙市内の公立小学校2校において、本研修キットを活用した校内研修を実施し、教員の外国語不安度や英語指導に対する情意面での変化を捕らえることとした。それぞれ2017年度の冬休み期間中の別の1日を校内研修日として設定し、その日に本研修キットDVDを使い3つの研修を行った。校内研修に参加したのは、計15名（男性9名、女性6名）の現職小学校教員で、参加者の平均勤務年数は27.6年であった。外国語不安尺度（TFLAS）及び事前・事後アンケートの回答を行ないその変化を捉えることとした。

研修参加教員の外国語（英語）に対する不安の値は、本研修キットを使った校内研修を行うことで下降した。研修参加者の外国語不安指数の平均値は減少（3.52→3.09）し、その変化には有意差があった。また、英語に不安を感じる教員の割合も減少（80%→53%）した。質問票からは、日本語と英語との言語的な違いや、コミュニケーションの際のジェスチャーの有効性に気づいたという意見の他に、英語を多用した授業をしたいという意欲を示す回答が多く、情意面でもポジティブな変化がみられた。

まとめ

本研究は、小学校教員の外国語不安を軽減し、英語指導力の向上を目指した校内研修キットを開発し、公立小学校の教員を対象にその効果を検証した。3回にわたる研修で構成されている本研修キットを実施することで、参加教員の外国語不安度の軽減に一定の効果があったこと、さらに教員の情意面でも英語指導に対してポジティブな変化がみられたことは、大きな成果であった。今後は、秋田県内の全小学校（199校）に本研修キットを無料で配布し、教員の英語指導力の向上に向けて活用してもらおう。さらに全国の自治体や小学校に向けても、小学校英語教育学会等の研究発表の場で広く紹介し、外国語不安の軽減の重要性や英語での指導を目指した研修の効果について広めていきたい。